

第3次柳井市総合計画の策定に向けた市民懇談会について（報告）

1 目的

第3次柳井市総合計画の策定に当たり、総合計画の策定過程における市民参画の一環として市民懇談会を実施し、市民の多様な意見やニーズを把握するとともに、計画策定の参考にしていくことを目的とする。

2 説明内容の概要

- (1) 総合計画の役割や策定趣旨
- (2) 第2次総合計画の取組状況と成果
- (3) 第3次総合計画の基本構想に掲げる将来都市像
- (4) (3)の実現に向けた6つの基本目標と30の基本施策の方向性
- (5) 10年後の目標人口を「概ね25,000人」とする考え方

3 参加人数

令和8年6月から7月にかけて、市内各地区計12箇所で開催。

開催日	会場	参加者
6月30日（火）	ふれあいタウン大畠	15人
7月1日（水）	阿月公民館	8人
7月3日（金）	みどりが丘図書館	25人
7月6日（月）	平郡東小学校体育館	16人
7月6日（月）	平郡西集会所	7人
7月7日（火）	余田公民館	14人
7月8日（水）	伊保庄公民館	25人
7月16日（木）	新庄公民館	21人
7月17日（金）	柳東文化会館	11人
7月21日（火）	伊陸公民館	22人
7月28日（火）	柳北小コミュニティルーム	28人
7月29日（水）	日積公民館	20人
合計		212人

4 参加者からのご意見

別紙のとおり

施策体系	基本目標	ご意見
将来都市像		・市民との協働によるまちづくりを進めるためには、アンケートだけでなく、市民との対話を重ねながら相互理解と合意形成を図ることが重要である。市民の力で未来をつくと掲げるなら、市民の意見を十分に反映し、市民と行政が対等な立場で協働できる仕組みづくりが必要である。 ・この将来都市像を聞いたときに、“市民が主人公”これは本当にそれでいいと思う。ただ、それを行政がどうサポートするか、ここを示していかないと、“市民が頑張ってください”というように捉えてしまう。 ・市民が柳井市に興味を持つことが重要であり、行政には広報紙やSNSなどを活用した積極的な情報発信を行ってほしい。また、市民懇談会の参加者が周囲に情報を広めることも、効果的な情報発信につながる。今後は、計画の周知や着実な実行に取り組んでほしい。
I-1	市民の力・協働	・文化振興事業について、柳井市観光大使として地域おこし活動を積極的にされている方がいる。広報掲載基準を見直すなど、活動を後押しする支援策を検討してほしい。 ・情報発信の重要性について職員の理解を深めるとともに、市民や職員などがそれぞれの立場で情報発信を行うことが重要である。また、周防大島町と比較すると、柳井市でも情報発信は増えてきているものの、さらに情報発信の担い手を増やしていく必要がある。 ・夢プランをより活性化していくため、各地区をつなぐ組織のようなものがあればよいと思う。
I-2	情報化	・ごみの収集日をパソコンで確認している。市のホームページはスマートフォンに対応しているのか。
I-3	連携・交流・移住	・近隣自治体等との広域連携を進めるに当たっては、まず市役所内部の連携や組織横断的な取組を充実させることが重要であり、その考え方を職員間で共有することが重要である。 ・お試し住宅や空き家バンク制度の利用者の声を広報やないで掲載すれば良いと思う。 ・人口減少対策として、進学や就職で転出した人のUターン・Iターンを促進することが重要である。また、都市部と柳井市の生活を比較したUIJターン経験者の意見を幅広く収集することで、効果的な情報発信をするための材料が見つかるかもしれないと思う。
I-4	行財政運営	・行政の倒産というのを新聞等で読んだりする。保育料の無償化などの施策は大変ありがたいと感じているが、今後、人口減少が進む中

施策体系	基本目標	ご意見
		で、プライマリーバランスも踏まえた 10 年間の財政運営の方向性を出していけるのか。
Ⅱ-1	人権・男女 共同参画	・人権教育推進委員会の委員をやっているが、新たな取組を検討してほしい。
Ⅱ-2	学校教育	・スクールコミュニティは、あまり機能していないのではないか。 ・スクールコミュニティの取組は、地域の方々と学校が協力し、熟議を何度も重ねながら、一步一步進んでいる。 ・児童生徒が少なくなってきた中、学校を核とした地域づくりを推進していくことが可能なのか。 ・スクールコミュニティの取組が進む中、今後、学校の統廃合などの問題も出てくると思う。柳井市でも小規模特認校制度の活用について検討してほしい。
Ⅱ-4	スポーツ 振興	・トップアスリートを輩出する土台となるスポーツ少年団に対し、年 1 回の補助金を交付できないか。
Ⅱ-6	文化・国際 交流	・アーティストが作品を展示しやすいよう、静かな環境や展示設備等の充実したギャラリーを整備してほしい。 ・ゴミ出しガイドブックの外国版がない。必要ではないか。
Ⅲ-2	医療・保健	・医療機関の医師の高齢化や閉院により、地域医療体制の維持が課題となっていることから、医師確保など将来を見据えた対策が必要ではないか。 ・第 2 次総合計画では、岩国医療センター等と協力していくと記載があったが、病院名を記載せず、近隣の医療機関という表現でも良いのではないかと思った。 ・安心して利用できる医療機関が、この 10 年間でなくなっている。この辺りをきちんとサポートすることは、高齢者が安心して暮らせるまちづくりにつながると思う。医療機関の充実をお願いしたい。 ・周東総合病院において、小児救急医療体制を復活させてほしい。
Ⅲ-4	高齢者福祉	・認知症バリアフリーとはどういうものか教えてほしい。 ・自治会に認知症と思われる方がいた場合、適切な対応方法が分からないことがある。相談する場所を教えてほしい。 ・市が市内全域に働きかけ、地域の元気な高齢者が動けないような高齢者を見守る仕組みづくりを進めてほしい。 ・独居高齢者に対する見守り活動の充実に、より予算を投入してほしい。

施策体系	基本目標	ご意見
Ⅲ-5	障がい者福祉	・知的障がい、身体障がいのある方で施設に入所できない人がいる。障がい者やその家族が安心して暮らし、生活できる環境の整備を進めてほしい。 ・障がい者福祉における「害」の字をひらがな表記としている点は評価する。一方で、制度名などでは漢字表記となっている。また、「老人」の「老」や「婦人」の「婦」などについても、柳井市総合計画として一歩踏み込んだ表記のあり方を検討してほしい。
Ⅳ-1	土地利用・都市構造	・伊陸地区を見た場合に、小学校と地域の施設がコンパクトにまとまりながら、その周辺からもアクセスをするという構想もあるのではないかな。 ・人口減少に伴い空き家の増加や都市のスポンジ化が進むことを懸念している。空き家対策や解体支援を計画的に進めるとともに、将来を見据えた明確な土地利用のビジョンを示してほしい。
Ⅳ-2	住環境	・入居者が少ない市営住宅について、今後の活用方針はどう考えているのか。
Ⅳ-3	公共交通	・柳井駅から広島までの快速列車や、防長バスの広島行き高速バスが廃止された。各地域との交流を図る上でも、公共交通の確保は重要な課題だと思う。 ・バイパスなどの道路整備については、計画性をもって着実に進めてほしい。
Ⅳ-4	道路・上下水道	・道幅が狭く交通事故の危険性がある道路について、安全対策を進めてほしい。
Ⅴ-1	危機管理・防災	・避難所で長期間生活することを想定すると、受入可能人数や備蓄品の状況、自炊の必要性など、避難所での対応に関する周知が不足していると感じる。 ・旭ヶ丘地区では、柳井商工高等学校が避難所となっている。旭ヶ丘の県営住宅は高台にあり、災害に対して安全である。また、県営住宅の部屋は大多数が空き家となっており、集会所はほとんど利用がない。県の土地であるが、当面の避難所としての指定とか検討できないかな。
Ⅴ-2	防犯・交通安全	・市長が選挙のときに掲げていた防犯カメラの整備は、これからも続けていくのか。
Ⅴ-3	消費生活	・認知症を患っている高齢者の単身世帯に対する悪質な訪問販売への対策を実行してほしい。
Ⅴ-4	循環型社会	・ごみ処理施設の更新に伴う分別収集の見直しや、周辺自治体と同様の分別方法を導入する予定があるのか。

施策体系	基本目標	ご意見
		・周東環境衛生組合清掃センターと不燃物処理場の計画的な運用を図ってほしい。
V-5	景観・環境保全	・柳井市の海は素晴らしいので、ぜひ柳井の武器にしてほしい。ただ、最近は海藻が少なくなり、魚も減ってきている。 ・商店の廃業が進むことで、地域の溝掃除などを担ってきたボランティアの減少が懸念される。
V-6	緑化・公園	・花のまちづくりを進めるためには、市職員も主体的に関わり、行政と市民が一体となって取り組む体制づくりが必要ではないか。
VI-1	観光	・高齢者をはじめとする観光客の利便性向上のため、町並み資料館にエレベーターを設置してほしい。 ・町並み資料館、やない西藏及びしらかべ学遊館に、専門の学芸員を配置してほしい。
VI-2	商工業・サービス業	・駅北地区において、商店の後継者不足や高齢化により店舗の廃業が進んでいる。お店を続けていく方に、家賃補助等をしていくことが必要ではないか。
VI-3	農林水産業	・スマート農業の導入には多額の初期投資が必要であり、小規模農家にとっては機械の更新や導入が大きな負担となっている。導入支援や補助制度の充実が必要ではないか。 ・やまぐちフラワーランドの無料化。光市の冠山総合公園は無料で、整備もしっかりされている。そのような公園と比較するなど、集客数を増やす検討が必要ではないか。 ・農地の規模を大きくし、有効に活用することで、農業で生活できる環境づくりにつながる。農地の環境整備にもっと力を入れるべきではないか。 ・農業や漁業などの第一次産業における人材育成は重要であり、行政の役割として推進してほしい。 ・高地にあるほ場整備済みの農地が、人手不足や水不足などを原因として耕作されていない。このような課題の解決に向けた取組に力を入れてほしい。 ・基幹的農業従事者は、10年後には半減すると見込まれ、担い手への農地集積にも限界があると考え。今後、担い手や農業法人、地域住民、行政がそれぞれどのような役割を担い、農業を維持させていくのか、イメージを聞いてみたい。また、田を維持することはもちろん重要であるが、里山の景観や、そこに生息する生物を後世に残していくことも大切である。そのためにも、担い手が将来に希望を持ち、柳井市で安心して農業を続けられるまちであってほしい。

施策体系	基本目標	ご意見
		・安心して暮らせるまちづくりのため、猿や熊への対策について計画に記載してほしい。
VI-4	企業誘致・雇用	・県内には人気の企業がたくさんある。高校生の県内就職を後押するため、PRが必要と考える。
その他（全体）		・人口減少を前提としてではなく、人口減少の抑制や人口増加を目指す前向きな姿勢を示すべきではないか。また、人口減少の要因や若い世代・子育て世帯のニーズを把握し、それらを踏まえた施策を展開することが重要でないか。 ・観光ももちろんだが、住んでいる住民がこの海ともっと親しくなれるような遊歩道・自転車道とか、海と近い生活ができるような、あるいはたくさんある漁港の有効活用とか、そういったものも考えてもらいたい。 ・いろいろな政策を行う上で、優先順位をつけることも悪くはないと考える。 ・地域の自然や人とのつながりなど、柳井市の魅力を大切にしながら、市民と行政が協働してまちづくりを進めることが重要である。また、市長をはじめ職員が総合計画の位置付けをしっかりと把握し、計画に基づく施策を着実に実行してほしい。 ・ここに書いてあることは、結局、予算がないとできないものばかりだと思う。10年先が読めない中で、10年という長期計画に意味があるのか。 ・市役所職員の元気がないように感じる。組織的な疲弊が出ているのではないかと危惧している。 ・子育てとか住環境などの個別施策を見ると、住民のためを思った施策を、きめ細やかに出しているところは敬意を表したい。 ・先般発表された住み良さランキングで柳井市は全国21位だった。その結果をいかに生かしていくか。 ・人口減少の大きな問題は、働く場所がないということ。大企業や製造業も撤退し、製造場所も海外へシフトしている。この問題は柳井市だけのものでないので、国へ訴えてほしい。 ・固定資産税や市民税の納税通知書の文字が小さい。対策が必要ではないか。 ・回覧物が多すぎる。回覧物が回せないような高齢者もいる。ペーパーレスの時代でもある。配布物は月に1回でもいいと思う。 ・高校生など若い世代の転出を食い止める策を講じる必要があるのではないか。

施策体系	基本目標	ご意見
		・柳井商工高等学校について、県所有の土地ではあるが、将来的に新たに産業用地として検討することはできないか。 ・伊保庄の小学校は2校あるが、人口減少の中、10年後にどれだけの数になっているか想像できると思う。空き地となった場合の利用を検討していく必要があるのではないか。 ・市として具体的にどのような取組を進めていくのか見えにくい。各施策に市民の協力に関する記載があるが、市の主体的な取組よりも市民任せのように受け取られる。人口減少対策については、市としての具体的な取組をより明確に記載すべきではないか。 ・新庄公民館のように子どもたちをはじめ全ての人が交流できる場所を増やしてほしい。 ・行政と住民が分け隔てなく活動できる市職員を中心としたまちおこしのグループを立ち上げてほしい。 ・行政の仕事が自治会に依存し過ぎているのではないかと感じる。 ・住んでみたいまち、そして最終的に住んで良かったと思えるまちづくりを目指してほしい。 ・使用済み核燃料の中間貯蔵施設の建設計画について、市民の声をしっかり聞いてほしい。 ・人生100年時代を迎え、知識や経験が豊富でボランティア活動にも熱心な高齢者が多くいることから、政策の実施など様々な場面で積極的に参画を促し、その力をまちづくりに生かしてほしい。 ・総合計画の策定スケジュールをざっくり教えてほしい。 ・社会情勢の変化が激しい中、基本計画の見直し期間を5年でなく、もっと柔軟性を持たせてもいいのではないか。 ・第2次総合計画と比較して、大きな変更点やここに力を入れたとか新しい取組等があれば教えてほしい。 ・第2次総合計画が終わったときの評価が大事。また、結果が見えてくることが大事。 ・第2次総合計画では成果指標が設定されているが、第3次総合計画でも設定するのか。また、第2次総合計画の成果や進捗を検証した上で、第3次総合計画を策定しているのか。 ・総合計画と関連する個別計画との整合性は図られているのか。 ・外国人の土地取得問題について、柳井市はどう考えているのか。 ・市民との協働を進めるためには、市民一人ひとりが元気であることが大切である。現在、地域を支えている高齢者も多いことから、そうした実情を踏まえたまちづくりに取り組んでほしい。

施策体系	基本目標	ご意見
		・大きな費用をかけず、高齢者が暮らしやすいまちとして全国に誇れるポイントが一つ増えれば、若い人、壮年の人が柳井に住んでみようと思うきっかけの一つになるのではないかな。 ・高齢者に係る予算規模を知りたい。また、高齢者に対する施策の充実を図ってほしい。